

令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名	秦野市立北小学校
-----	----------

1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) ・国語科の「話すこと・聞くこと」については、概ね理解できています。また、「読むこと」については、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることが概ねできています。記述式問題については無回答率が改善され、取り組む児童が増えてきています。	(1) ・国語科では漢字の書き取りを苦手とする児童が多く見られます。特に熟語や送り仮名のある漢字に対して課題が見られます。 ・自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して書いたりすることには課題が見受けられます。
(2) ・算数科についてはグラフから必要な数量を読み取る力は多くの児童に身に付いています。 ・理科の生物等の知識について概ね身に付いています。特に実際に行った実験から得た知識については、定着が見られます。	(2) ・算数科の割合を苦手とする児童が多く見られます。特に、表から2つの数量の関係を読み取り、未知の数量をもとめることに課題が見られます。 ・理科の実験結果や観察を基に、問題に対するまとめを検討して、自分の考えを持つことに課題が見られます。
(3) ・「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「自分で決めたことはやり遂げる」と回答した児童の割合は高くなっています。 ・「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあります」と回答した児童の割合は高くなっています。 ・ICT機器を学習に活用している割合は高くなっています。	(3) ・授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した児童の割合が全国に比べて低くなっています。また、学級会、道徳、総合等における話し合い活動において、互いの意見のよさを生かしたり、自身の意見を深めたりすることには課題が見られます。

2 昨年度の取組の分析と考察

(1) 令和3年度に引き続き、本学年も5年生のときに教育委員会と協働して課題解決のための教材を使ったアプローチプログラムを実施したことにより、問題に粘り強く取り組む姿勢を培うことができました。また、記述式の問題については本校の課題となっていました。全部書けなくても途中まで記述し正答に近づいた子のがんばりを認め、部分点とする「小さな○」を昨年から授業において意識して取り組んできました。その成果として、記述問題の正答率の上昇と無回答率の減少が見受けられました。
(2) 本校は読書好きな児童が多いという特徴が見られます。教師や地域の方による読み聞かせ等の読書活動を昨年からこれまで以上に推進してきました。今年度は、給食の時間に「お話のプレゼント」と称し、学校長による読み聞かせを毎日行っています。今年度の学習状況調査における、「家にはどれくらい本がありますか」という問いに対して、多くの家庭で全国よりも冊数が多いという結果がありました。また、夏休みの読書感想文に取り組む児童も大幅に増え、本に親しむ児童がさらに増えています。
(3) 昨年の結果から、資料から必要な情報を読み取ることはできていますが、読み取った情報を活用することについては課題が本校には見られました。そこで、ICT機器等を用いて自分の目的に合った資料を選択したり、まとめたりする活動を多く取り入れてきました。ICT機器等を調べ学習に用いている児童は非常に多く、活用率は全国よりも高くなっています。

3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) 様々な本に触れることは、語彙力を高めたり興味関心の幅を広げたりするきっかけを作る上で大切になります。本校は読書好きな児童が多いという特徴が見られますので、教師による読み聞かせ等の読書活動をさらに推進し、本に触れる機会を設けることで、より多くの児童が読書に親しむことができるよう取り組んでいきます。
(2) これまで多くの児童に見受けられた自分の考えを書くことへの苦手意識は改善されてきました。しかし自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して書いたりすることには課題が見受けられます。友達と協力して学習する中で、友達の考えのよいところを取り入れ、自分の考えを深めたり広げたりする協働的な活動を増やしていきます。
(3) 課題を解決する上で、基礎的な学力の定着は必要です。国語における漢字、算数における計算等の基礎的な部分で本校には課題が見受けられます。そのため、本校の特徴であるICT機器等の高い活用率を生かし、タブレット端末の学習教材アプリを活用して自主的に学習に取り組めるよう「算数ライセンス(通称「算ライズ」)」を行っていきます。また、長期休み明けに漢字テストをこれまでも行ってきましたが、その出題範囲を今まで習った漢字全てとする等、「自主性」と「反復」をキーワードに取り組みを進めていきたいと思えます。

4 家庭・地域の方へのメッセージ

本校は読書好きな児童が多いという特徴が見られます。それは、各ご家庭においてお子様が本に親しむ機会があるからこそです。児童にとっては様々な本に触れることが、語彙力を高めたり興味関心の幅を広げたりするきっかけとなります。教師による読み聞かせ等の読書活動をこれまで以上に推進し、本に触れる機会を多く作っていきたくと考えています。ご家庭での読み聞かせ等は、児童にとって貴重な体験であり、そこから興味関心が広がり、主体的な学びにつながっていきます。本から学んだことや、興味を持ったことから、家庭での学習も深まっていくと考えます。児童の家庭学習(自主学習)と一緒に応援しましょう。 子どもを健やかに育てるには学校・家庭・地域が協働することが重要だと考えます。引き続き子どもに寄り添い、子どもの声を聞き、子どもたちの可能性と一緒に広げていきましょう。
